

学習指導案形式（例）

第〇学年〇組 家庭科又は技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）〇校時

場 所 〇〇市立〇〇小（中）学校 家庭科室又は第〇学年〇組 計〇名

指導者 T1:学級担任（氏名）

T2 職名 （氏名）

（職名～栄養教諭 主任栄養技師 副主任栄養技師 栄養技師）

1 題材名 〇〇〇（B（1）ウ）

* 題材名（教科書に記載されている題材名の使用可）と学習指導要領の「内容」に示されている項目（A～D,（1）～、ア～）を書く。

* 教科主任等は、小学校2年間（中学校3年間）を見通した学習内容表（題材の配当表）を必ず作成する。

2 題材の目標

* 学習指導要領で示された目標及び内容を踏まえ、児童生徒の実態、題材や教材の意味などをもとに設定する。

* 児童生徒の発達段階を踏まえ、学習経験とつながりを持たせて書く。

3 題材の評価規準

○ 小学校：家庭生活への関心・意欲・態度

中学校：生活や技術への関心・意欲・態度

○ 小学校：生活を創意工夫する能力

中学校：生活を工夫し創造する能力

○ 小学校：生活の技能

中学校：生活の技能

○ 小学校：家庭生活についての知識・理解

中学校：生活や技術についての知識・理解

* 上記の4観点について、適切な評価ができるように精選し、簡潔に書く。

* 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校家庭科】【中学校技術・家庭】平成23年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センター「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」を参考にし、題材の内容に合わせて言葉を省略したり変更したりする。

4 題材設定の理由 *簡略の場合は（1）～（3）をまとめて書く。

（1）題材観

* 取り上げる題材の内容、既習事項との関連、今後の展開、この題材を取り上げる意義、題材と児童生徒との関係などを指導者の立場で書く。

（2）児童観（生徒観）

* 児童生徒の興味・関心・意欲、題材に対する知識・技能、既習事項の定着度など、前題材や前時までの実態、この題材で育てたい児童生徒像などを指導者の立場で書く。

（3）指導観

* 指導・支援の力点、学習形態、仮説、食育の目標、その他の配慮事項などを指導者の立場で書く。

* 言語活動（話し合い、観察のまとめ、新聞作成など）、については、その活動の目的を書く。

* 例「〇〇において（場面）、〇〇することにより（具体的な手立て）、〇〇ようにする（目指す方向）」という表現をする。

5 指導と評価の計画（ 総時数 〇〇時間 ）

時	主な学習活動	評価規準及び評価方法			
		家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
1	○主な活動 *用言止め * 活動の具体的な内容を児童生徒の立場で書く。	〇〇しようとしている。	〇〇自分なり工夫している。		
<p>* 毎時間4観点を評価するのではなく、その時間のねらいや学習活動に照らして、いずれかの観点到重点を置く。1単位時間あたり1～2観点を評価する。</p> <p>* 題材を通して4観点の評価をバランスよく配置する。</p>					

2	○				
3 構	○			○○することができる。	○○○○理解している。 ○○がわかる。

- * 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校家庭科】、【中学校技術・家庭】平成23年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の設定例」を参考にし、題材の内容に合わせて言葉を省略したり変更したりする。
- * 評価方法は、作品、ワークシートの記述内容、行動観察、発言内容、実技テスト、ペーパーテスト等と書く。

6 本時の目標

- * 本時の学習活動を通して、身に付させたい資質や能力（ねらい）を明確にし、児童生徒の立場で具体的に書く。（「5 指導と評価の計画」の評価規準との整合性を持たせること。）
- * 本時のねらいに応じて、観点の精選化・重点化を図って児童生徒の立場で書く。

7 学習過程（例）

	学習活動・内容	時間	形態	○指導常の留意点 ※評価規準（評価方法）
課題把握	1 前時の復習をする。 *用言 2 学習課題を把握する。 (学習課題、めあて)	5分	一斉	○ * 学習活動に対して中心となる指導・支援を書く。 * 具体的な手立てを書く
課題追究	3 ○○について情報交換をする。 (1) 自分が調べたことを発表する。 ・材料 ・用具 *体言 (2) 友だちの考えを聞いて、伝える。 4 グループで話し合い、改善したことを発表する。	15分 10分	グループ 一斉	ねらいに添う評価にする。文末は「～している。」と表現する。 ※ ○○○○している。(ワークシート) * 評価規準に示した姿が見られない(Bに達していない)子どもへの指導・支援の手立てを書く。
まとめ	5 本時のまとめをする。 (1) 自己評価・相互評価をする。 (2) 発表を聞いて分かったことをまとめる。 6 次時の学習内容を確認する。	10分 2分	個別 グループ 一斉	

- * 評価規準は、「おおむね満足できる状況(B)」について節制する。
- * 評価方法は、作品、ワークシートの記述内容等、本時の学習活動でねらいとしていることを具体的に児童生徒の立場で書く。
- * 言語活動は、その活動の目的を書く。

8 板書計画

学習課題

9 準備物

- 児童生徒：教科書、家庭科ファイル、
教師：食品実物標本、○○、○○